

## ■ 見学施設外観



## ■ 見学施設内部の様子



## ■ 着工前の西置繭所



## 保存修理工事と見学施設について

富岡製糸場では、2015年より5年計画で国宝「西置繭所」の保存修理を行っています。このたびの工事では、耐震補強と活用のための整備を併せて行います。完成後は、1階に多目的ホールやギャラリーを設けるなどし、公開・活用をしていく計画です。

文化財建造物の保存修理は時間と手間と費用のかかる事業ですが、貴重な文化財を後世に引き継ぐためには欠かせません。富岡製糸場では、国宝建物の保存修理の現場を公開し、多くの人に文化財保存事業に対して理解を深めていただくために、このたび見学施設を設けました。

見学施設は、工事の間、西置繭所全体を覆う素屋根(覆屋)に付設して造られていて、主な展示と現場見学のフロアは3階にあります。3階は西置繭所の軒の高さで、約104メートルの長さ(桁行)を見通すことができます。

展示では、グラフィックパネルや映像により西置繭所の歴史や価値・特徴、工事の内容を説明しているほか、完成予定模型(縮尺1/50)を展示して竣工後の活用について説明をしています。

また、中庭に面したガラス窓からは、場内で唯一3階の高さから富岡製糸場を見渡していただけます。

## 国宝「西置繭所」について

富岡製糸場は、1872年(明治5年)に政府が模範工場として設立した器械製糸工場(生糸を作る工場)で、1987年の操業停止まで115年間、日本を代表する製糸工場として操業を続けました。

生糸の原料は、蚕の繭です。製糸工場には乾燥させた繭を保管しておく貯繭倉庫が必要で、富岡製糸場には、西置繭所と東置繭所、2棟の貯繭倉庫があります。

西置繭所は敷地の西側に南北に長く配置され、約104メートルあります。木骨煉瓦造という特徴的な工法で建てられていて、骨組みは木造で、煉瓦壁は「フランス積み」で仕上げられています。屋根を支える小屋組みにはトラス構造が用いられるなど西洋の建築技術が導入されていますが、屋根は和瓦で葺かれ、煉瓦積みの目地には漆喰が用いられるなど、伝統技術も使われています。

### 富岡製糸場へのアクセス

※お車の場合、近隣の駐車場をご利用ください。

〒370-2316 群馬県富岡市富岡1-1

上信越自動車道 富岡I.C下車、各駐車場まで約10分(3km)、駐車場より徒歩約10分(500m)



### 見学者様へお願い

見学エリアは工事現場です。見学中は常にヘルメットを着用してください。ヘルメットは、入場口で渡す専用ヘルメットを必ずご利用ください。

**見学時間**  
朝9時から夕方4時受付・入場まで  
※混雑が想定されますので、時間と人数を限定してのご案内となります。  
Open 9am - 4pm (last admission)

**富岡製糸場見学料** 大人1,000円/大学・高校生250円/中学・小学生150円

**期間限定公開:2019年春頃終了予定**  
Time-limited open until 2019 Spring

見学施設は富岡製糸場見学料とは別に下記料金がかかります。

**料金:大人200円、中学生以下100円**

(ヘルメット貸出料として)

West Cocoon Warehouse Conservation Work Viewing Deck  
Admission fee: adult/200yen

### 見学受付のご案内

